



No.18・19



奉仕の心で

岸 三重子 さん

下野田在住。篤志面接委員として、少年院にて34年間お茶の指導（更正）にあたる。その功績により、平成19年度春の褒章で“藍綬褒章”を受章。今後の抱負などを伺いました。

岸さんが篤志面接委員の活動を始めたのは、24歳の時。母親の吉沢八重子さんと一緒に指導にあたっていました。10年前に八重子さんは他界。その後も活動を続け、今年で34年になりました。岸さんのお稽古は、季節の花や、掛軸、茶碗の話などから始まります。子どもたちは話を聞いている中で、今まで見過ごしてきた身の回りの小さな事柄に気づき、興味をもって次第にお稽古の時間に集中できるようになるそうです。また、感じとる心が芽生え、自分を取りもどすきっかけにもつながっていきます。

岸さんは、「指導する子どもたちは変わりますが、この活動を続けていくことで、伝統的な事柄のよさを伝えていきたい。これからも頑張ろうと思います。」と笑顔で語ってくれました。

こどもたちをみつめて38年

齋藤 良平 さん

下野田在住。法務教官として38年勤務した功績により、平成19年度春の叙勲で“瑞宝単光章”を受章。長きにわたる教官人生について、お話を伺いました。

受賞について「なぜ、私が・・・と最初は思いました。」と話す齋藤さん。非行に対する思いから矯正業務の道に進み、前橋市岩神町の少年鑑別所、千葉県、茨城県の少年院に勤務。その後、群馬県内で3箇所目の職場となった榛名女子学園（榛東村）にて退職されました。

「特殊な環境におかれた子どもたちを正しい方向へと導くためには、子どもたちと厳しく向き合う反面愛情を注ぎつつ、他方職員間の協力体制も必要となります。すべてにおいて、目配り、気配り、心配りの信念で奮起する毎日でした。「職務に忠実に教育をしよう」という姿勢が評価されたのでは。先輩方のご指導と、家族の協力があつたからこそその受章です。」と穏やかに語ってくれました。

文芸よしおか

新樹土曜会

老い父に娘より添ふ座禅草 善養寺玲子

みどり児の髪梳かしをり春の風 舟岡 則子

花筵車の形残しをり 永井 晶子

花待てば雪の華咲く伊香保かな 岩寄 妥江

わが家の愛ドル



八木 ^{はるか}陽奏 ちゃん 平成17年2月27日生まれ
^{わかな}和奏 ちゃん 平成18年7月18日生まれ
健裕さん 寛子さんの長女・2女（第8区）

・メッセージ
毎日が演奏会のような我が家だけど、姉妹で仲良く、元気に育ってね。

※このコーナーでは、2歳以下のお子さんを紹介します。写真とメッセージを添え総務政策課庶務行政室までお寄せください。